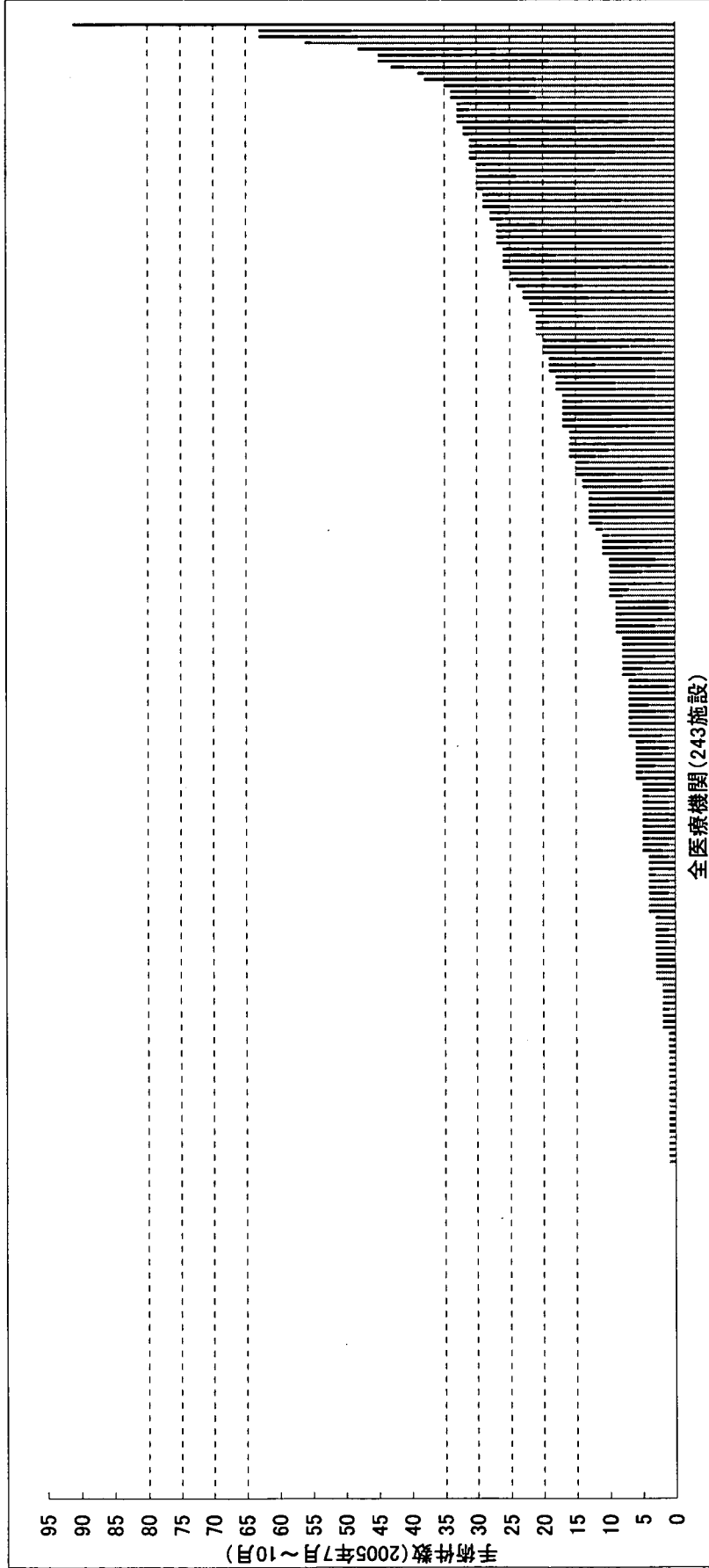


MDC04

呼吸器系疾患

肺の悪性腫瘍に対する手術件数

分類名	解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル												
	0400403x01/	0400403x02/	0400403x04	手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
肺の悪性腫瘍	肺切除術/気管支形成術の件数		2,730	11	14	0	91	0	0	0	1	6	18	30	34
	胸腔鏡を使わない肺切除術/気管支形成術の件数		1,339	6	8	0	82	0	0	0	0	3	8	15	21
	胸腔鏡手術の件数		1,391	6	9	0	55	0	0	0	0	1	8	19	25



【図の説明】

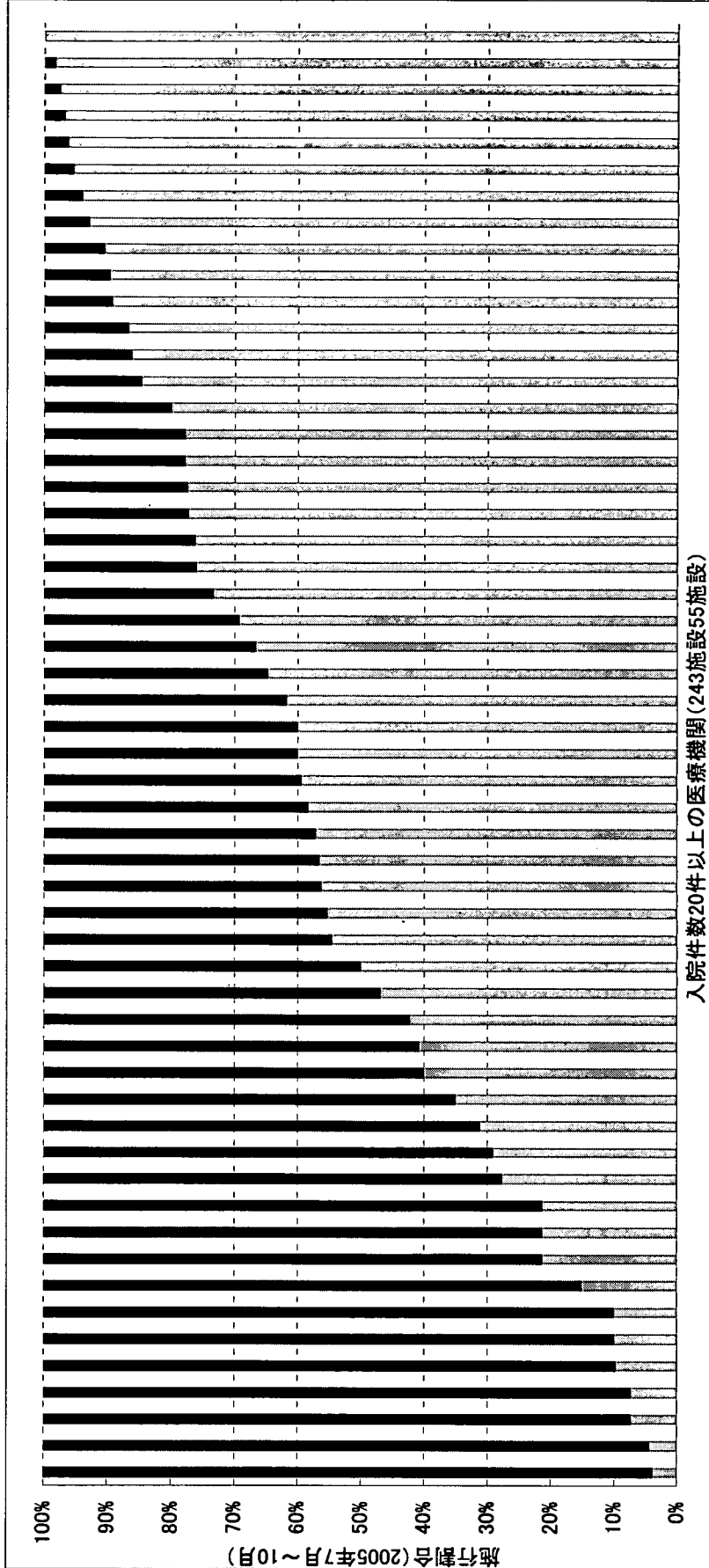
: 胸腔鏡手術[DPC手術コード:04およびKコード:K513, K514-2]
 : 胸腔鏡を使わない肺切除術/気管支形成術[DPC手術コード:01, 02]

【コメント】

- ・全体の77%(188施設)において1件以上の手術が見られた。
- ・件数の多い医療機関は、特定機能病院に多く見られた。

肺の悪性腫瘍手術施行例における胸腔鏡手術の施行割合(N = 1,767)

解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル										
0400403x01 / 0400403x02 / 0400403x04		解析内容										
分類名	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95	
肺の悪性腫瘍	42%	30%	0%	96%	3%	5%	18%	40%	67%	90%	93%	
胸腔鏡手術の施行割合	58%	30%	4%	100%	7%	10%	33%	60%	82%	95%	97%	



【図の説明】

20件以上の施設を解析対象とした。

■ : 胸腔鏡手術[DPC手術コード:04およびKコード:K513, K514-2]

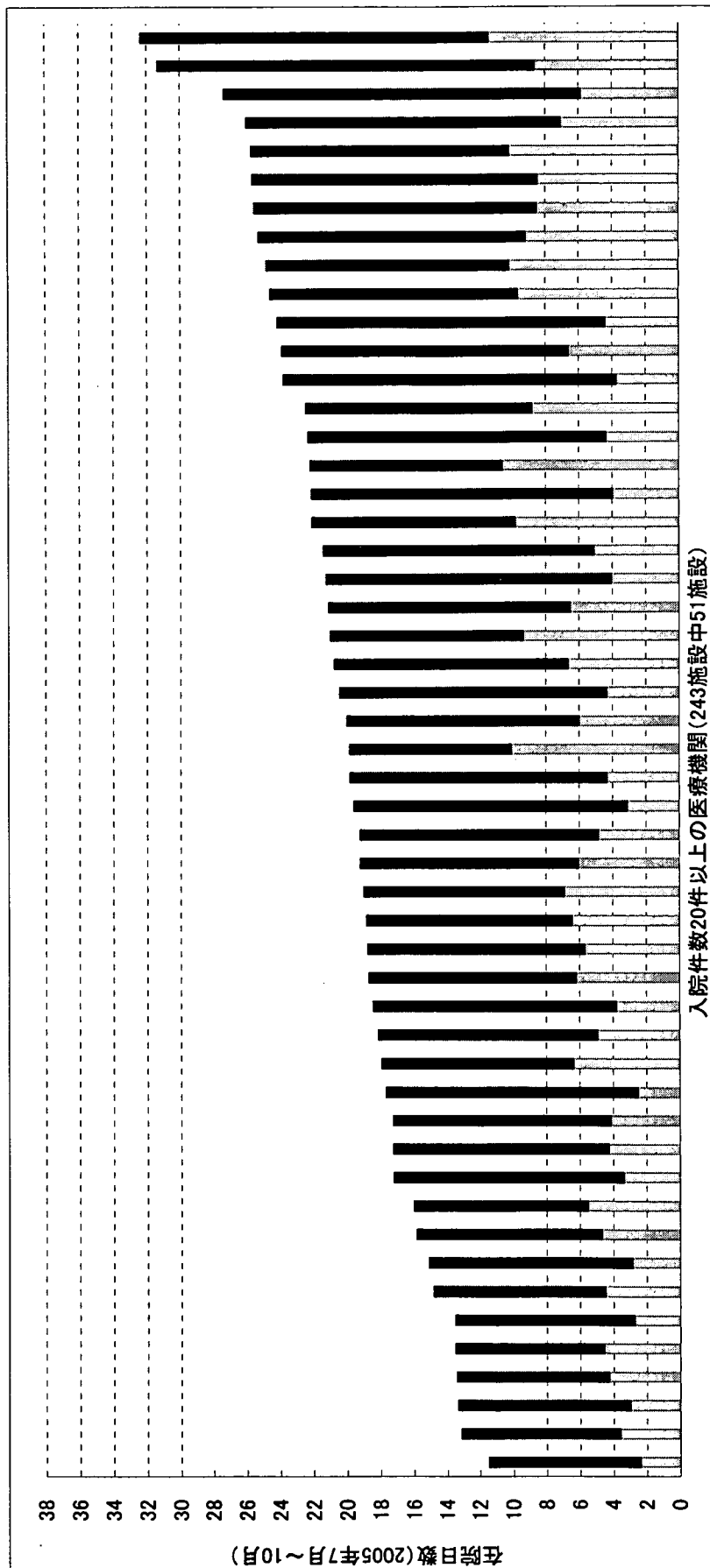
■ : 胸腔鏡を使わない肺切除術/気管支形成術[DPC手術コード:01, 02]

【コメント】

- ・病院により胸腔鏡手術の施行率は大きく異なっていた。
- ・全体的には胸腔鏡手術の方がその他の手術よりも、わずかではあるが施行割合が高かった。

肺の悪性腫瘍手術施行例における平均在院日数(N = 1,617)

分類名	解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル												
	0400403x01/0400403x02	0400403x04	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95		
肺の悪性腫瘍	在院日数		20.3	4.5	11.5	32.4	13.4	13.6	17.5	19.9	23.1	25.7	26.7		
	術後在院日数		14.4	3.4	9.0	22.8	9.4	10.4	11.9	14.1	16.5	19.0	20.6		
	術前在院日数		5.9	2.5	2.3	11.4	2.8	3.1	4.2	5.5	7.7	9.8	10.1		



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数20件以上の施設を解析対象とした。

■ : 術前在院日数

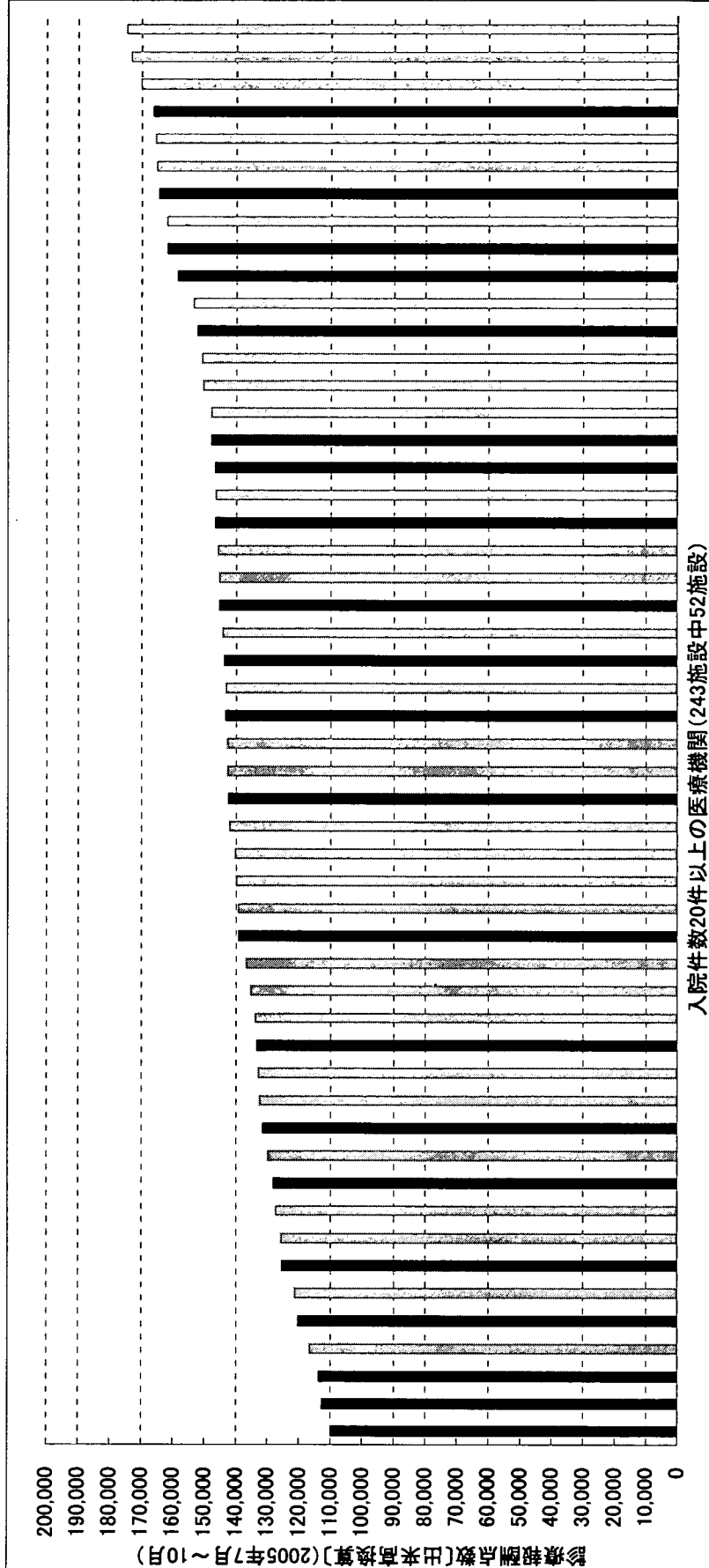
■ : 術後在院日数

【コメント】

- ・肺の悪性腫瘍の平均在院日数が10～15日程度の医療機関も存在していた。
- ・外れ値下位2.5%未満に62件が相当したが、そのうち11件と8件がそれぞれ1施設で占められていた。

肺の悪性腫瘍手術施行例における一入院当たり診療報酬点数〔出来高換算〕平均値(N = 1,632)

分類名	0400403x01/ 0400403x02/ 0400403x04		パーセントایل									
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95	
肺の悪性腫瘍/新切除術あるいは気管支形成術を施行した症例	診療報酬点数〔出来高換算〕	142,710	15,639	110,001	174,868	115,574	122,070	133,022	143,337	150,804	165,257	168,134
	特定機能病院(31施設)〔出来高換算総点数〕	144,669	14,743	116,940	174,868	123,774	127,464	134,852	143,243	150,894	165,767	171,884
	その他の参加病院(21施設)〔出来高換算の総点数〕	139,817	16,819	110,001	166,315	112,922	113,906	128,274	143,432	147,955	161,963	164,561



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数20件以上の施設を解析対象とした。単位は診療報酬点数である。

□ : 特定機能病院

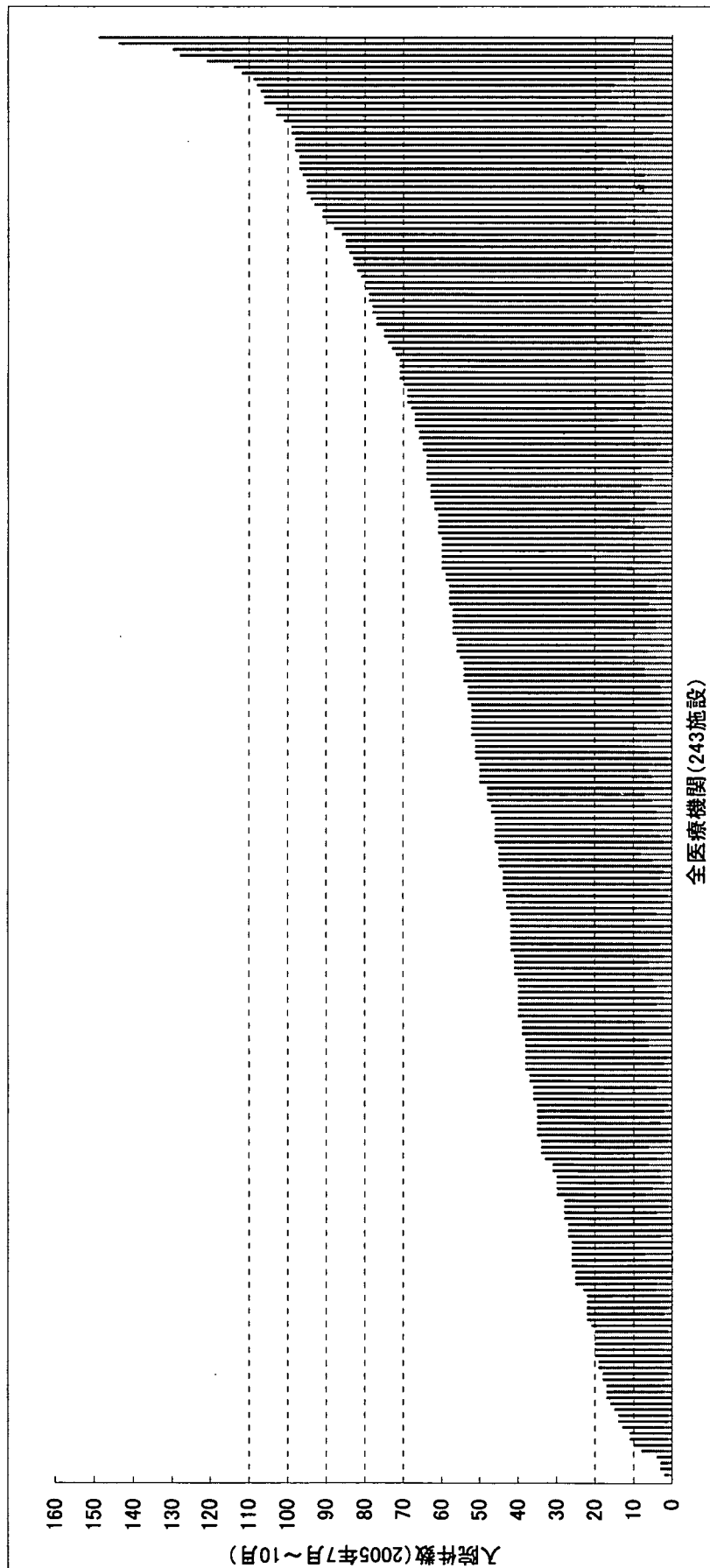
■ : その他の参加病院

【コメント】

・在院日数のバラツキに対して、診療報酬点数のバラツキは比較的小さいものであった。

6歳以上の肺炎・気管支炎の入院件数

解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル											
分類名	解析内容	入院件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
肺炎、急性気管支炎、急性細菌気管支炎	6歳以上の肺炎の件数	13,042	54	28	0	149	15	20	35	51	69	95	103



【図の説明】

■: 6歳以上の肺炎・気管支炎の入院件数(死亡退院)

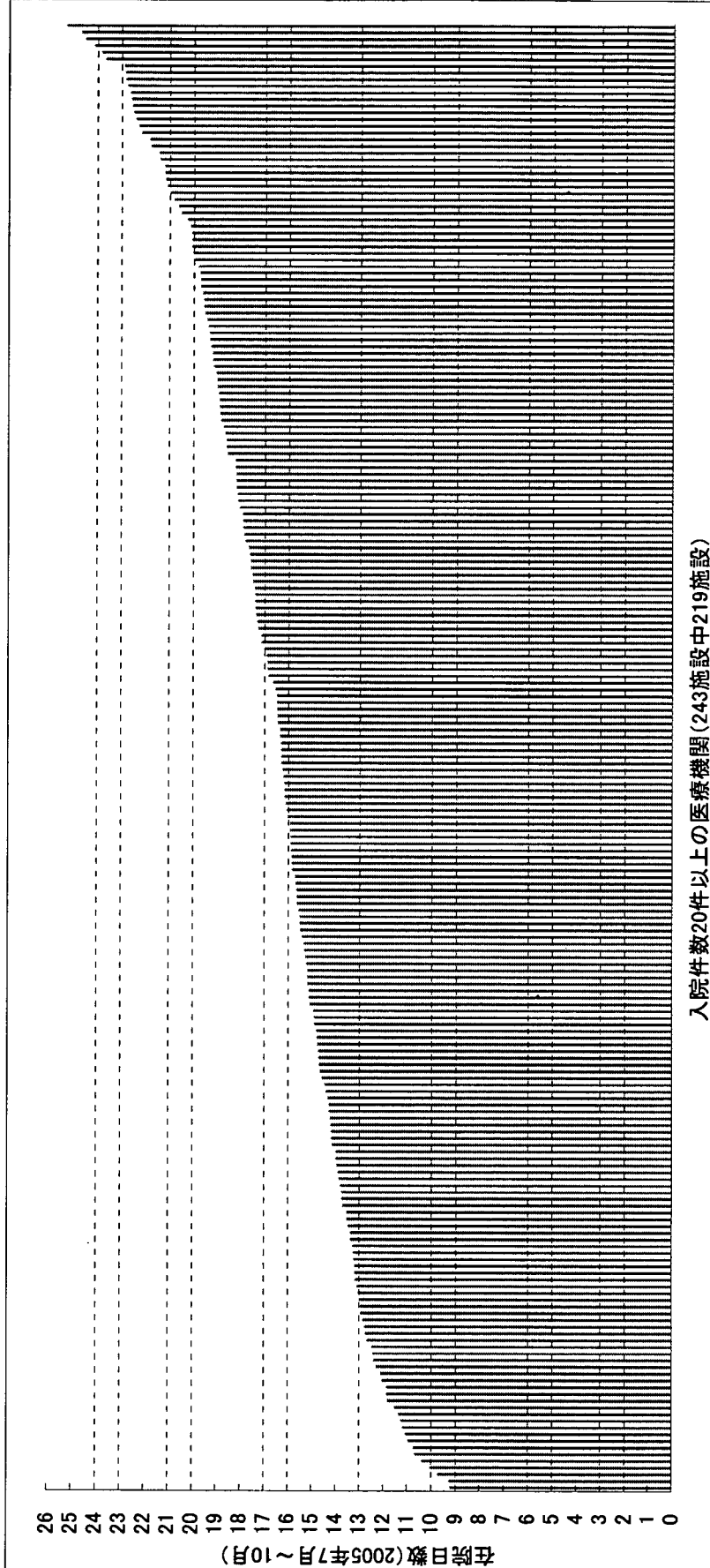
■: 6歳以上の肺炎・気管支炎の入院件数(生存退院)

【コメント】

- ・6歳以上の肺炎の件数は、MDC 04の全件の約19%を占めていた。
- ・全施設243施設中242施設において1件以上の入院が見られ、全体の91%(222施設)において1件以上の死亡例が見られた。
- ・患者のリスク等を考慮していない粗死亡率は平均9%で、死亡率が20%を超える病院が複数存在していた。

6歳以上の肺炎・気管支炎における平均在院日数(N = 12,209)

解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル										
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
肺炎、急性気管支炎、急性細菌気管支炎	6歳以上の肺炎における在院日数	16.6	3.3	9.2	25.3	11.4	12.6	14.2	16.3	19.0	21.2	22.6



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数20件以上の施設を解析対象とした。

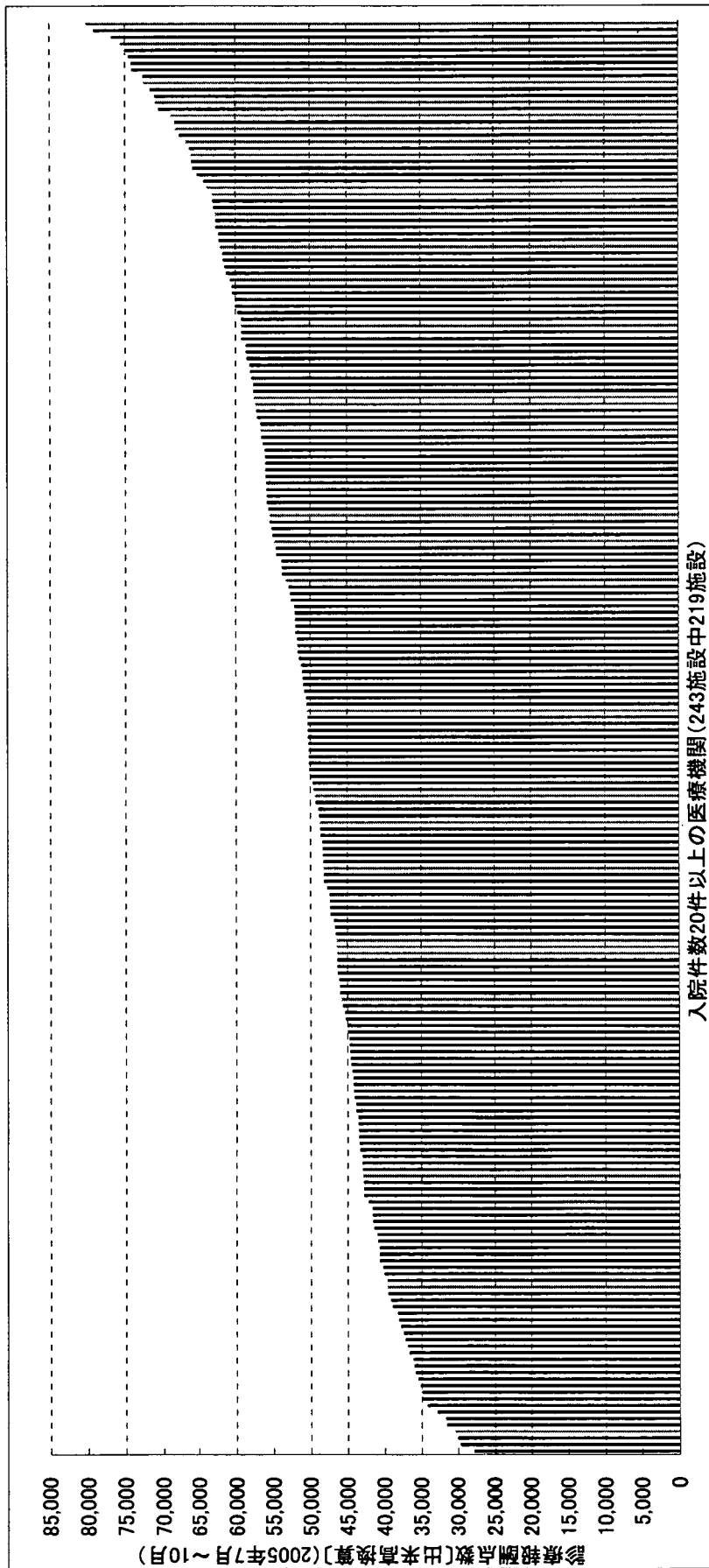
■:6歳以上の肺炎における在院日数

【コメント】

- ・平均在院日数は、最も長い医療機関は最も短い医療機関の約3倍であった。ただし、患者のリスクを考慮していない。
- ・外れ値下位2.5%未満に211件が相当したが、特定の施設で症例が集中することはなかった(最大7件)。

6歳以上の肺炎・気管支における一入院当たり診療報酬点数〔出来高換算〕平均値(N = 12,105)

解析対象DPC番号の範囲	04008030	パーセンタイル										
		解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90
肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(6歳以上)	診療報酬点数〔出来高換算〕	51,347	10,498	27,813	80,146	35,434	38,797	44,090	50,325	57,776	65,804	71,116
特定機能病院(188施設)〔出来高換算総点数〕		57,137	11,341	30,469	80,146	41,306	45,827	48,491	57,352	64,893	70,961	74,076
その他の参加病院(31施設)〔出来高制度の総点数〕		50,392	10,068	27,813	79,135	35,260	38,023	43,580	50,006	56,357	62,835	69,750



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数20件以上の施設を解析対象とした。単位は診療報酬点数である。

□ : 特定機能病院

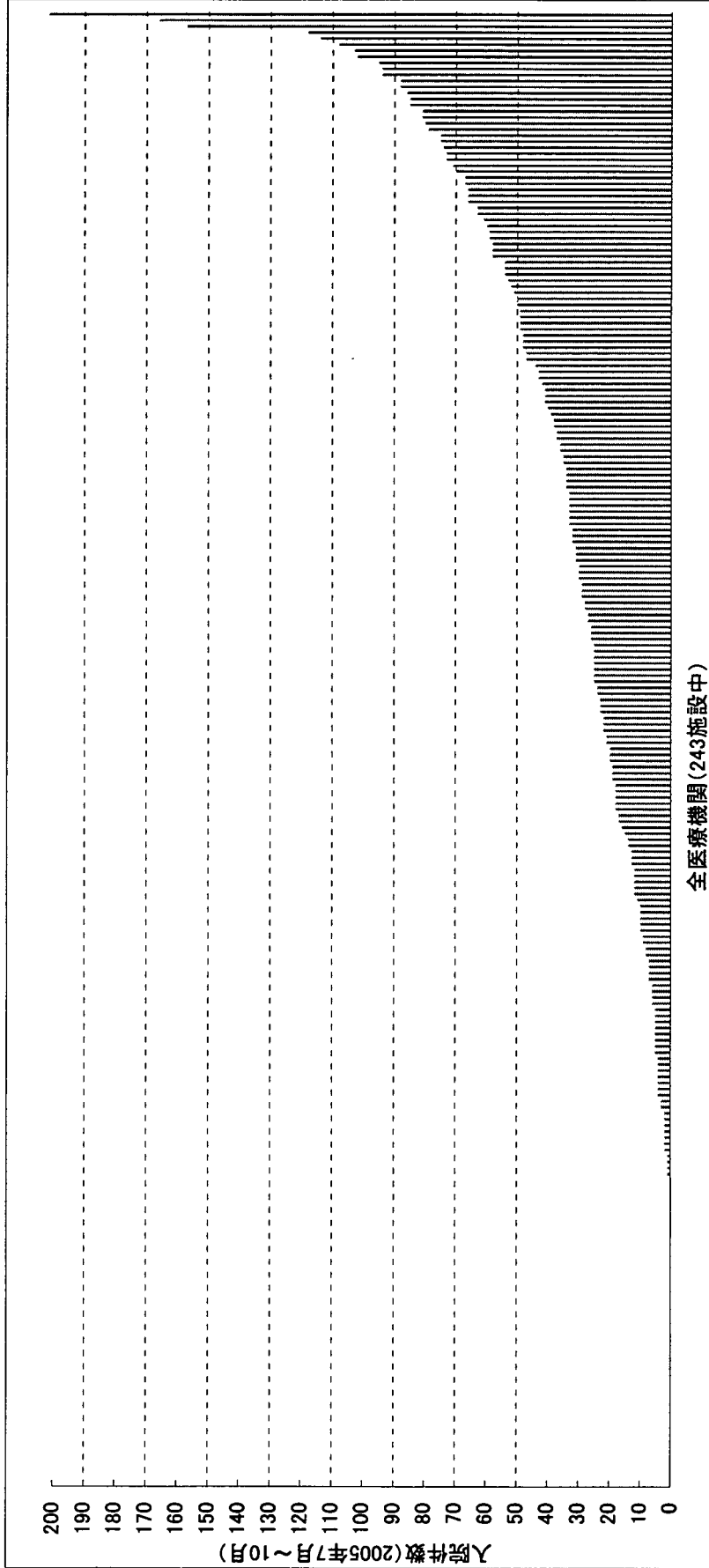
■ : その他の参加病院

【コメント】

- ・診療報酬点数〔出来高換算〕は、特定機能病院の方が高い傾向にあった。
- ・最も高い医療機関は、最も低い医療機関の約3倍であった。

6歳未満の肺炎・気管支炎の入院件数

解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル											
分類名	解析内容	入院件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
肺炎、急性気管支炎、急性細菌気管支炎	6歳未満の肺炎の入院件数	7,126	29	38	0	396	0	0	2	20	43	73	88



【図の説明】

■:6歳未満の肺炎の件数

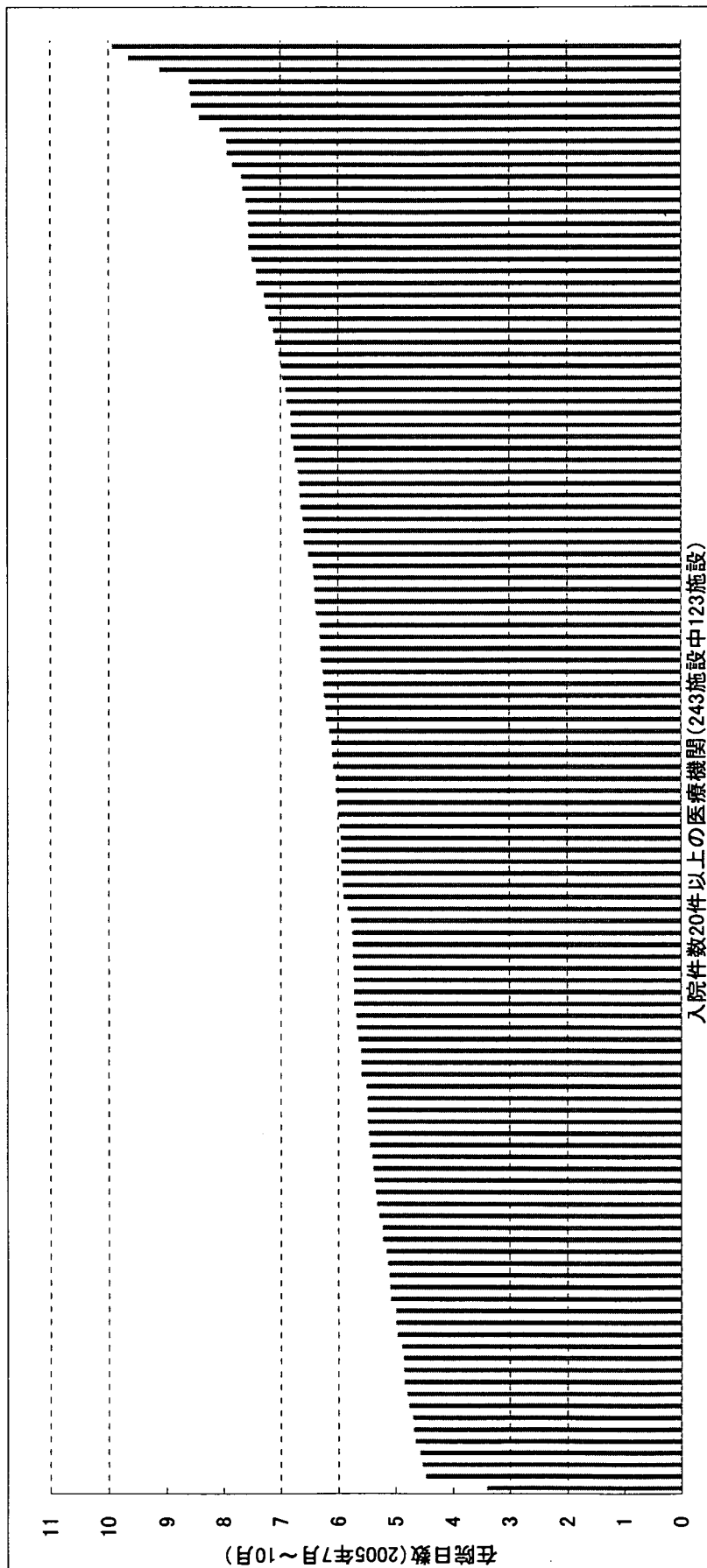
※1施設、入院件数が突出しているため(入院件数:396件)、それ以外の施設の入院件数のみが図の範囲に含まれている。

【コメント】

- ・6歳未満の肺炎を20例以上扱っている医療機関は、特定機能病院よりもその他の参加病院の方に多く見られた。
- ・全体の79%(192施設)において1件以上の症例が見られた。特定の医療機関に入院が偏る傾向が見られた。
- ・6歳未満の肺炎では、死亡例はほとんど無かった(粗死亡率:0.01%)。

6歳未満の肺炎・気管支炎における平均在院日数(N = 6,268)

分類名	解析内容	パーセンタイル										
		平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎	6歳未満の肺炎における在院日数	6.2	1.1	3.4	9.9	4.7	4.9	5.5	6.1	6.9	7.7	8.4



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数20件以上の施設を解析対象とした。

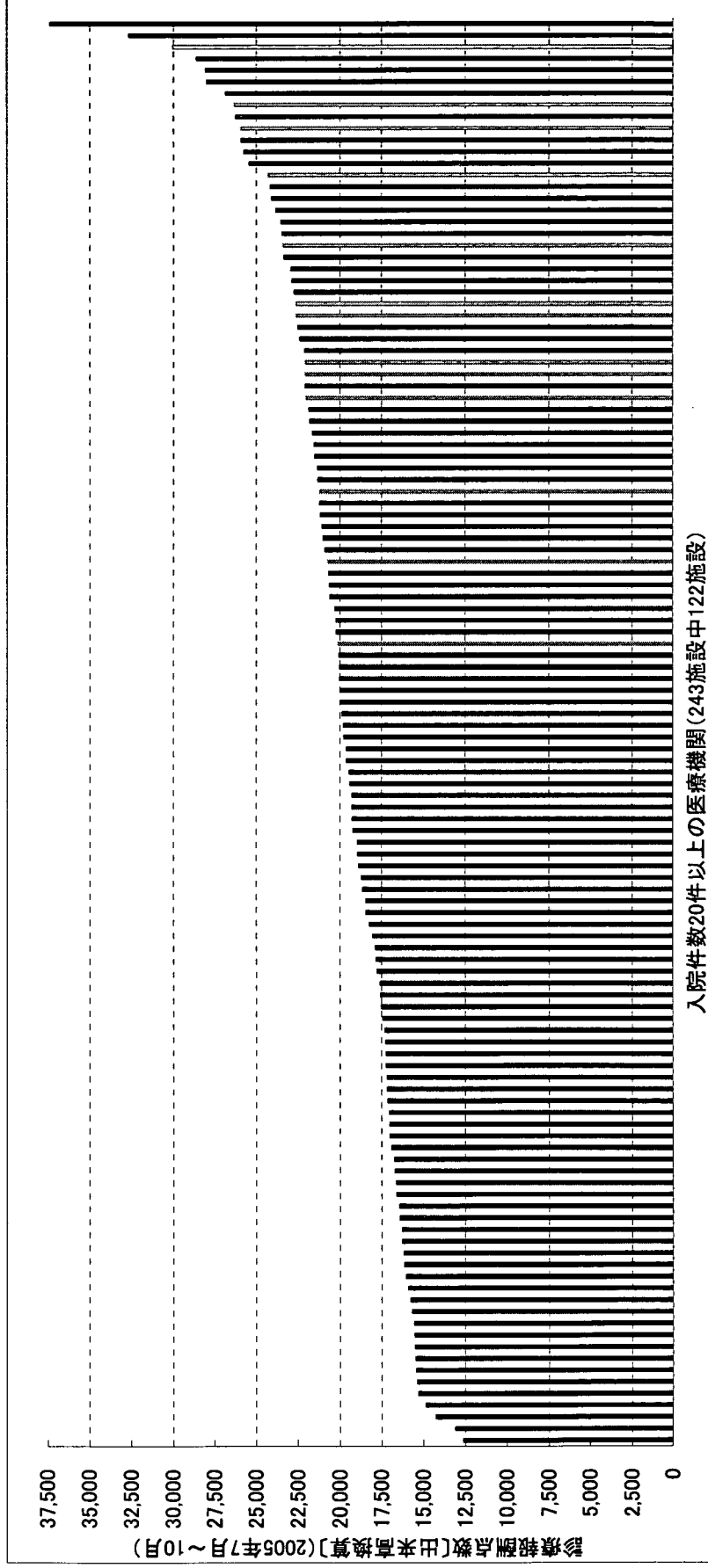
■ : 6歳未満の肺炎における在院日数

【コメント】

- ・6歳未満の肺炎の平均在院日数は、4～10日であった。
- ・1施設のみだが平均在院日数が4日未満の施設(件数:75例)が存在した。
- ・外れ値下位2.5%未満に124件が相当したが、そのうち17件が1施設で占められていた。

6歳未満の肺炎・気管支における一入院当たり診療報酬点数〔出来高換算〕平均値(N = 6,207)

分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル						
						5	10	25	50	75	90	95
肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(6歳未満)	診療報酬点数〔出来高換算〕	20,127	3,951	12,660	37,396	15,464	15,814	17,200	19,805	22,087	25,336	26,875
	特定機能病院(13施設)〔出来高換算総点数〕	23,375	2,732	20,134	30,097	20,499	20,843	22,079	22,652	24,314	26,279	27,856
	その他の参加病院(109施設)〔出来高制度の総点数〕	19,740	3,904	12,660	37,396	15,432	15,683	17,058	19,316	21,516	24,130	26,652

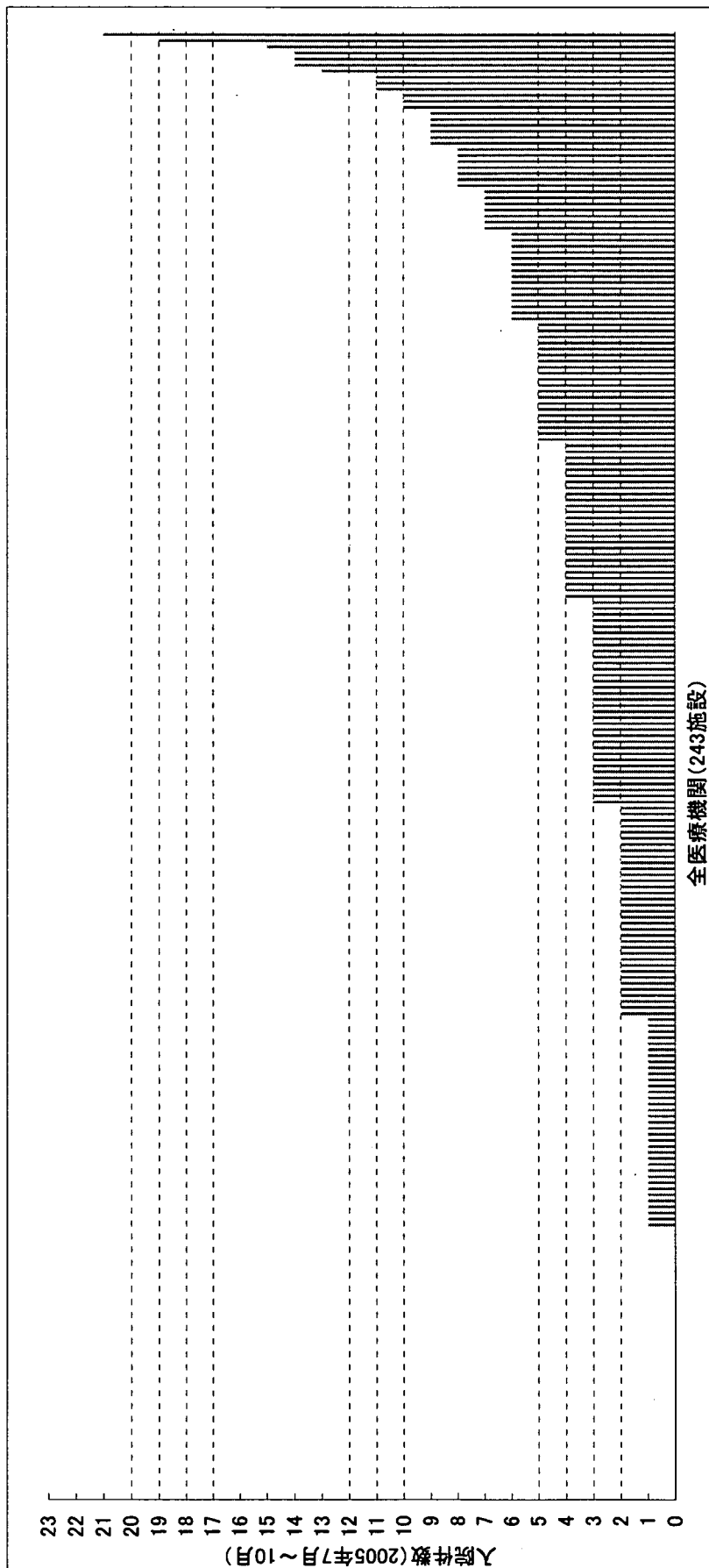


【図の説明】 入院件数20件以上の医療機関(243施設中122施設)
 外れ値両側5%を除外し、件数20件以上の施設を解析対象とした。単位は診療報酬点数である。
 ■: 特定機能病院
 ■: その他の参加病院

【コメント】 ・診療報酬点数〔出来高換算〕では、最も多い医療機関は最も少ない医療機関の約3倍であった。

慢性閉塞性肺疾患(COPD)の入院件数

解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル											
分類名	解析内容	入院件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
慢性閉塞性肺疾患	入院件数	833	3.4	3.4	0	21	0	0	1	3	5	8	10



【図の説明】

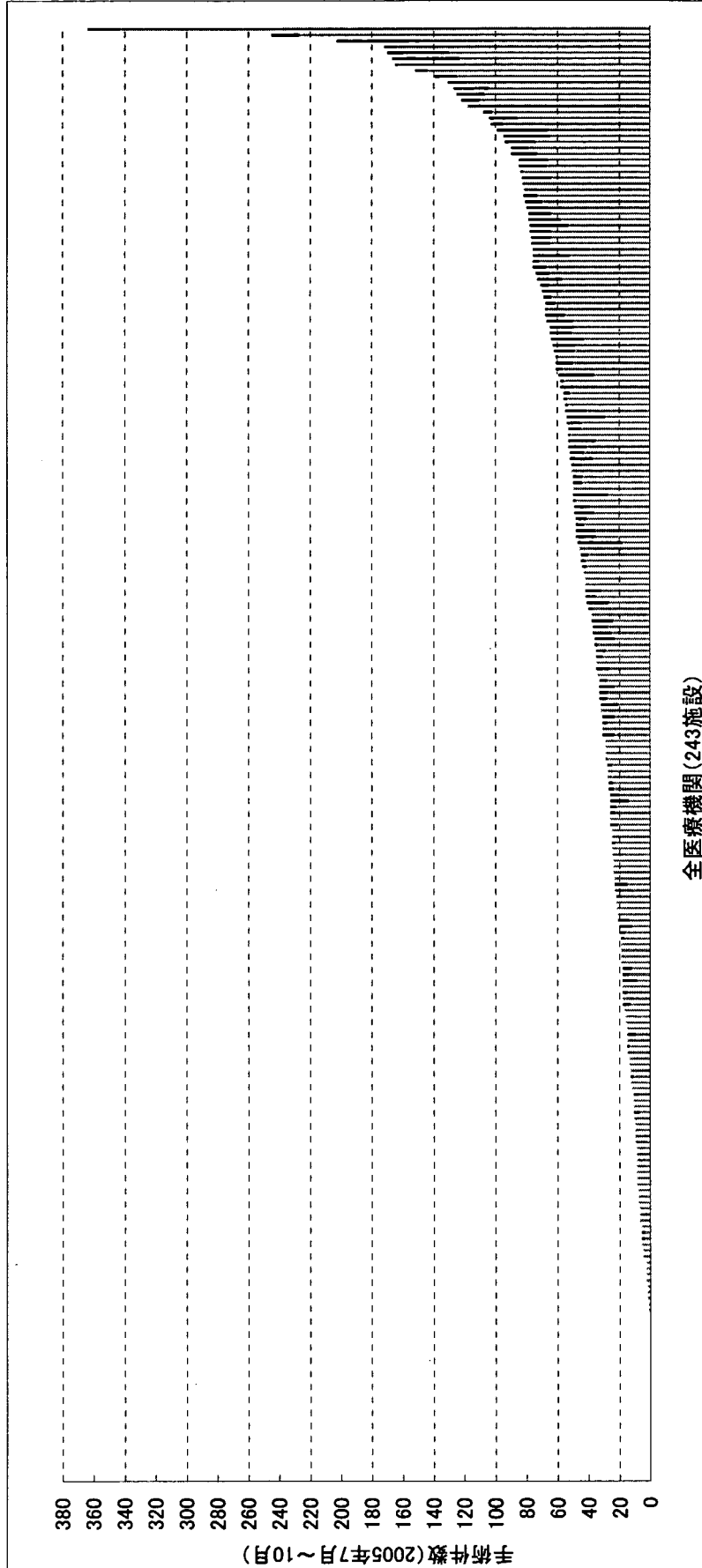
■ : 慢性閉塞性肺疾患の件数

【コメント】

- ・慢性閉塞性肺疾患の件数はいずれの施設でも少ないが、これは慢性閉塞性肺疾患の患者の入院が肺炎などその他の原因によるためと考えられる。
- ・全体の81%(198施設)において1件以上の入院が見られた。

狭心症・慢性虚血性心疾患における冠動脈バイパス術・経皮的冠動脈インターベンションの施行件数

分類名	解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル											
	0500503x02/0500503x03/0500503x05/0500503x06/0500503x07/0500503x08	0500503x03/0500503x05/0500503x06/0500503x07/0500503x08	手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
狭心症/慢性虚血性心疾患	冠動脈バイパス術件数	1442	5.9	8.6	0	54	0	0	0	0	2	9	17	22.8
	経皮的冠動脈インターベンション件数	8592	35.4	39.4	0	343	0	0	0	10	25	49.5	71.6	106.7



【図の説明】

■：経皮的冠動脈インターベンション[手術コード:05~08]

■：冠動脈バイパス術[DPC手術コード:02, 03]

全医療機関(243施設)

【コメント】

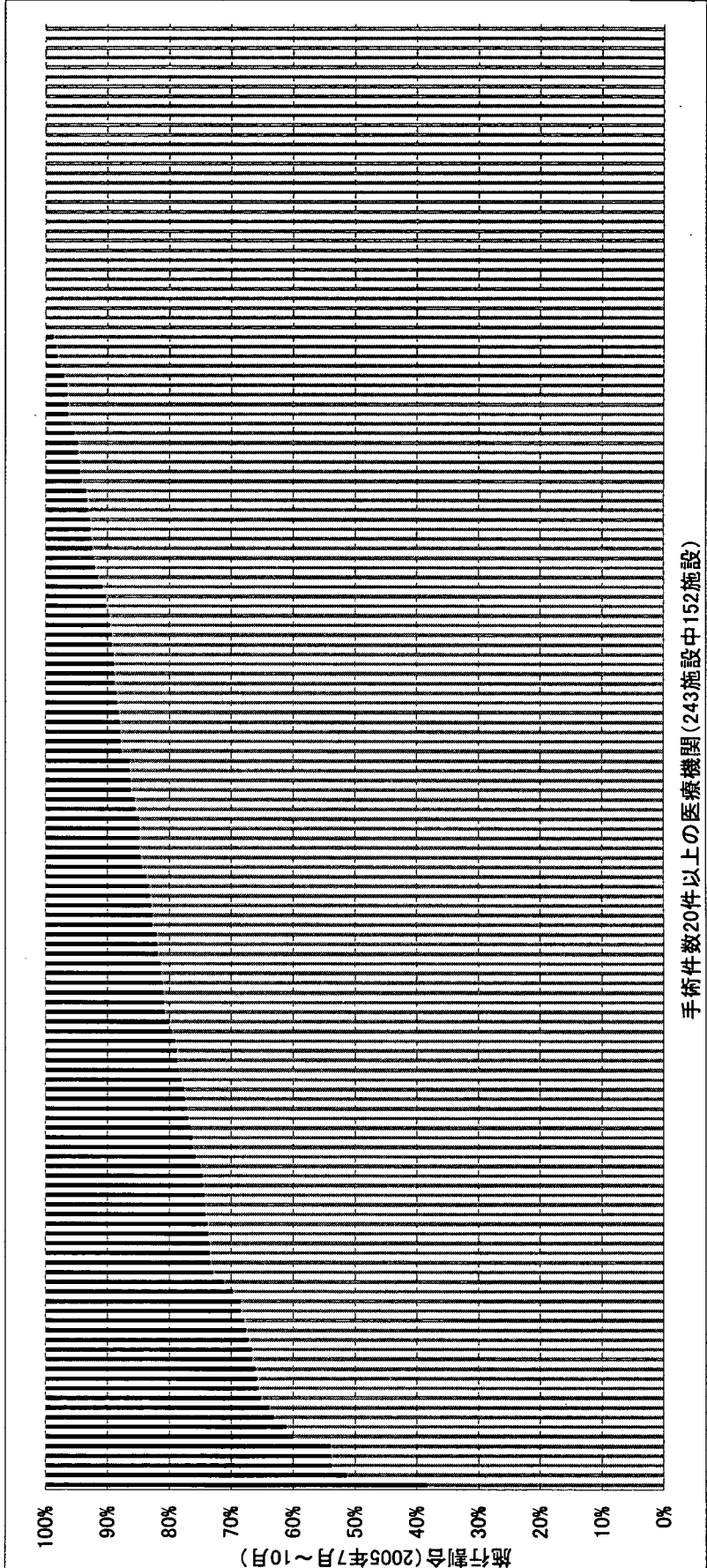
狭心症・慢性虚血性心疾患症例に対し243施設中215施設(88%)で経皮的冠動脈インターベンション(PCI)もしくは冠動脈バイパス術(CABG)が施行されていた。CABGの施行割合は全体の1.5割を占め、残りの8.5割の症例ではPCIが行われていた。PCI施行件数の施設間のバラツキ大きく、4か月間の施行件数の中央値は25件で、最小0件から最大343件まで分布していた。

MDC05

循環器系疾患

狭心症・慢性虚血性心疾患における冠動脈バイパス術・経皮的冠動脈インターベンションの施行割合(N=9,353)

分類名	0500503x02/ 0500503x03/ 0500503x05/ 0500503x06/ 0500503x07/ 0500503x08		パーセントایل									
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95	
狭心症/慢性虚血性心疾患	15%	13%	0%	62%	0%	0%	3%	13%	23%	33%	36%	
	85%	13%	38%	100%	64%	67%	77%	87%	97%	100%	100%	



【図の説明】

20件以上の施設を解析対象とした。

■: 経皮的冠動脈インターベンション[手術コード: 05~08]

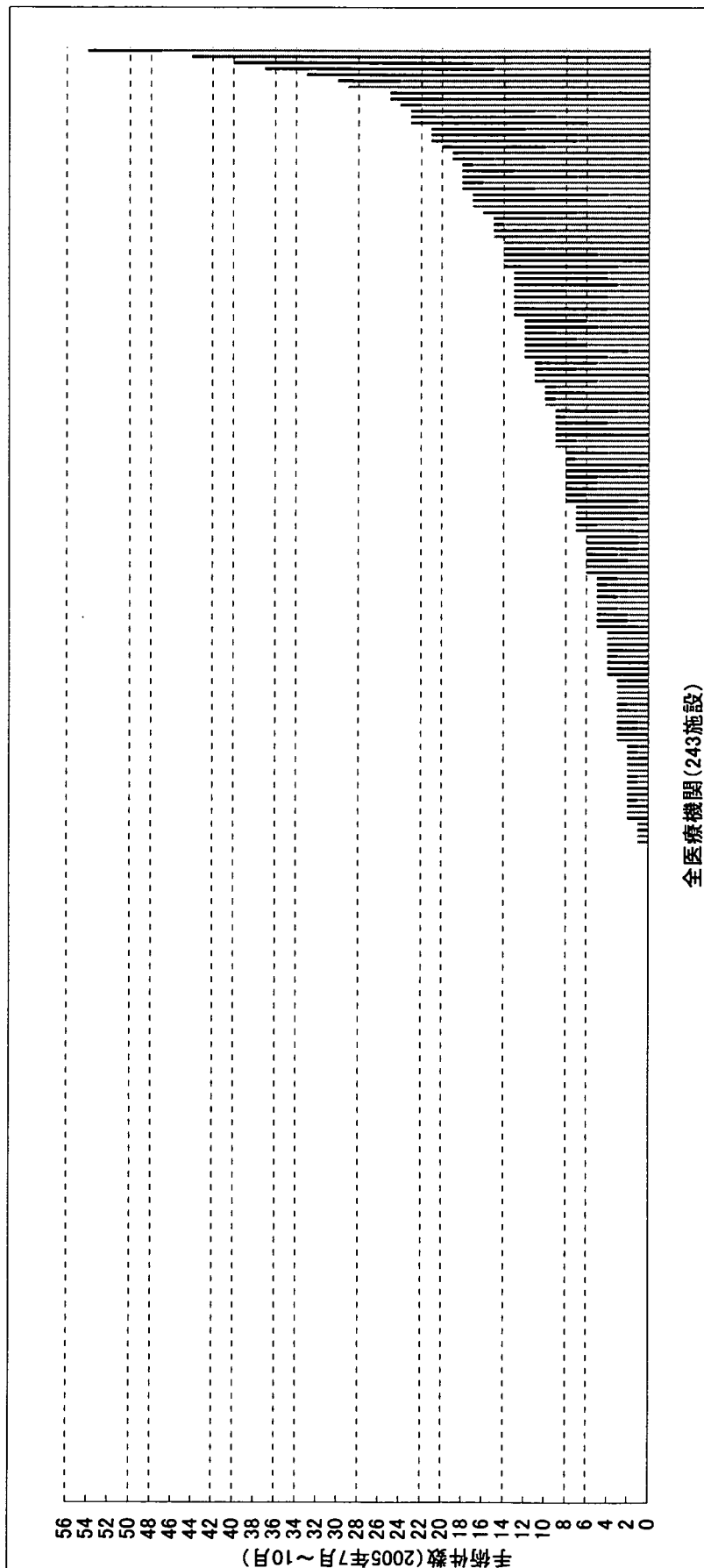
■: 冠動脈バイパス術[DPC手術コード: 02.03]

【コメント】

狭心症・慢性虚血性心疾患に対する経皮的冠動脈インターベンション(PCI)・冠動脈バイパス術(CABG)の手術件数が4か月間で20件以上の152施設を解析対象とした。全体の85%の症例でPCIが選択されており、最も少ない施設でその割合は38%、32施設において全例PCI選択であった。

狭心症・慢性虚血性心疾患における冠動脈バイパス術の術式別施行件数

解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル												
0500503x02/ 0500503x03														
分類名	解析内容		手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
	人工心肺を使用する冠動脈バイパス術(CABG)施行件数	人工心肺を使用しない冠動脈バイパス術(OPCAB)施行件数												
狭心症/慢性虚血性心疾患	655	787	2.7	4.6	0	33	0	0	0	0	0	4	9	11
			3.2	6.2	0	47	0	0	0	0	0	4	9.8	15



全医療機関(243施設)

【図の説明】

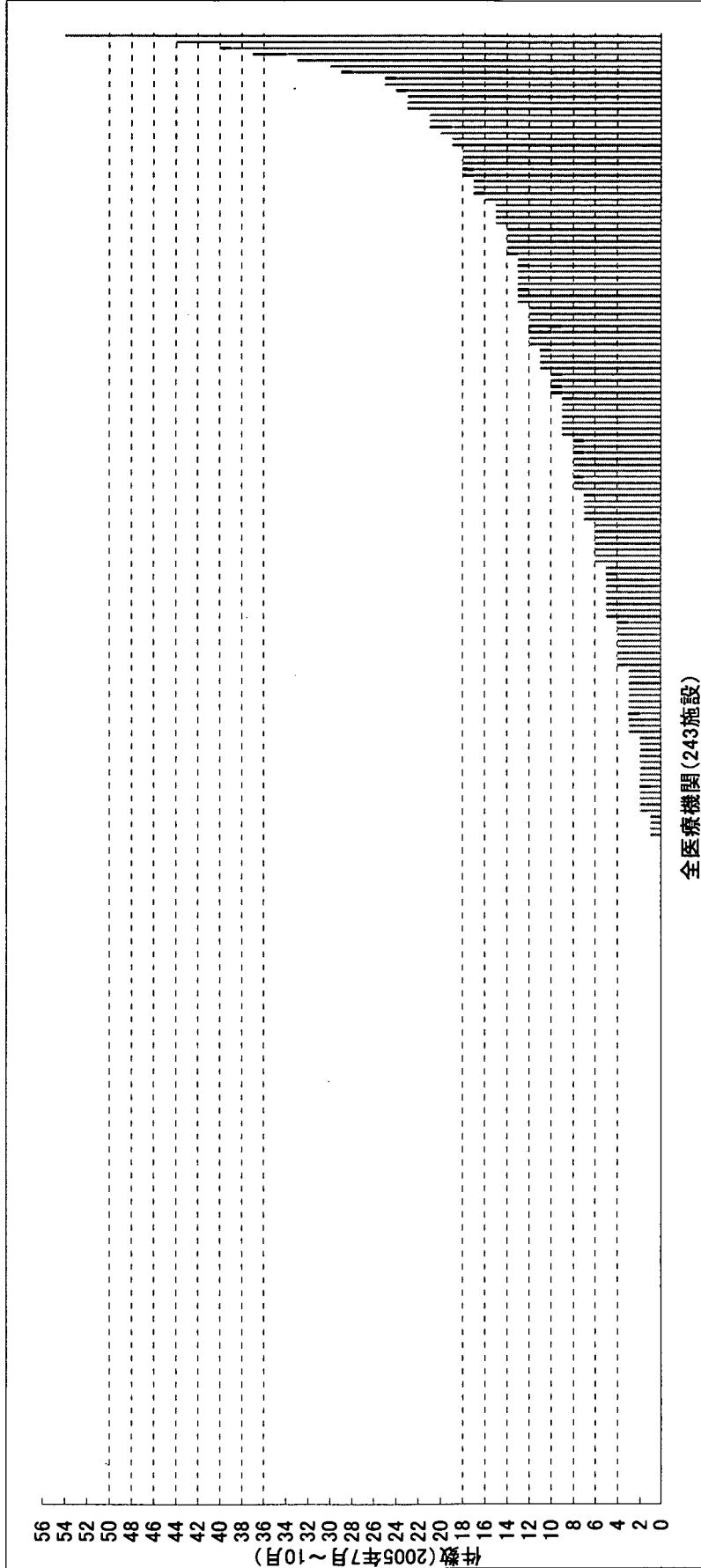
■ :人工心肺を使用しない冠動脈バイパス術(OPCAB) [DPC手術コード:02] ■ :人工心肺を使用する冠動脈バイパス術(CABG) [DPC手術コード:03]

【コメント】

243施設中133施設(55%)において冠動脈バイパス術(CABG)が施行されていた。人工心肺を使用しないCABG(OPCAB)の施行割合は全体の55%を占めていた。OPCABを1件も実施しなかった施設もわずかではあるが認められた。OPCAB、CABG共に、施設間で施行件数に大きなバラツキがみられた。

狭心症・慢性虚血性心疾患における冠動脈バイパス術施行件数

解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル											
分類名	解析内容	件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
狭心症/慢性虚血性心疾患	術後死亡者数	34	0.1	0.4	0	3	0	0	0	0	0	1	1
	生存者数	1408	5.8	8.5	0	54	0	0	0	2	9	17	23



【図の説明】

■ : 生存者数

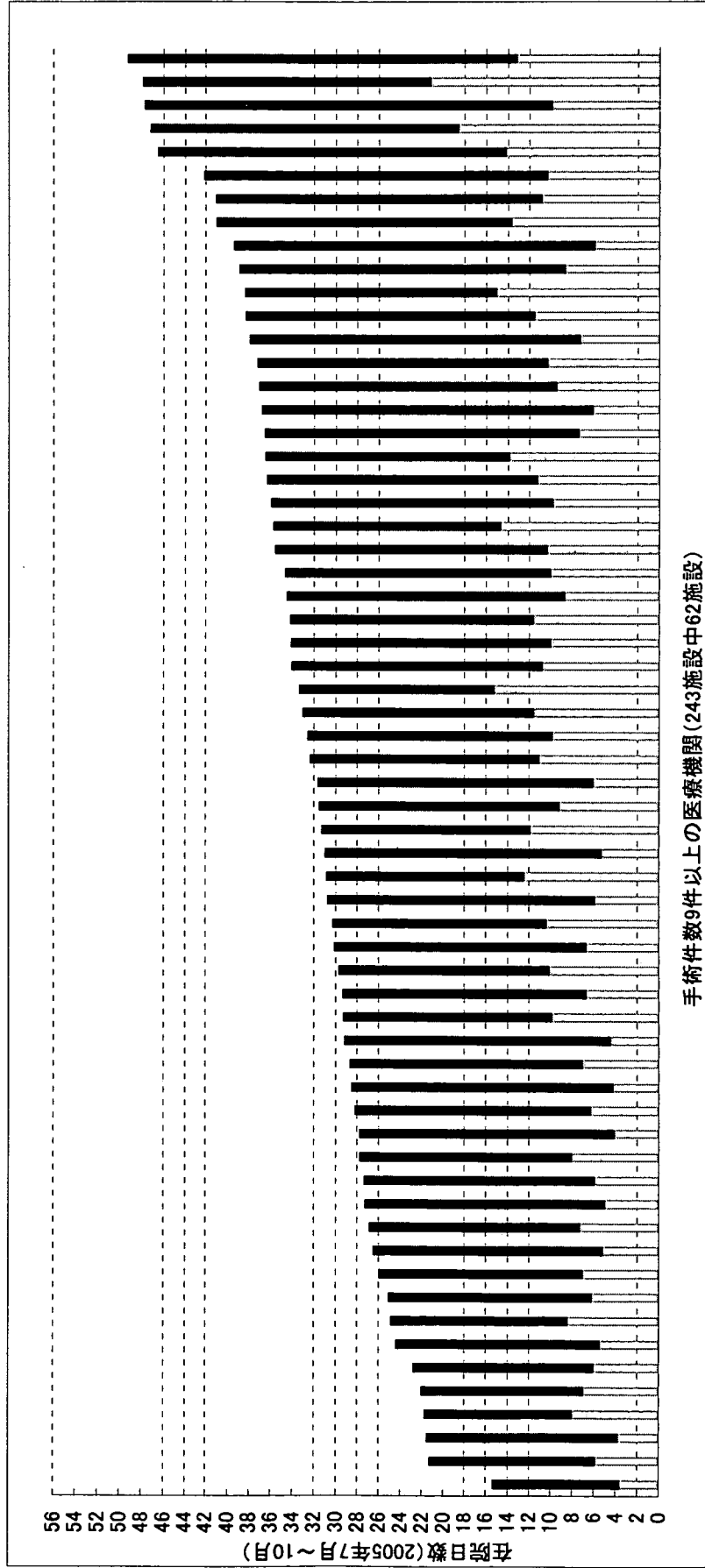
■ : 死亡者数

【コメント】

243施設中133施設(55%)において冠動脈バイパス術が1件以上施行され、中央値は2件であった。施行件数の分布は、最小0件、最大54件と、施設間で大きなバラツキがみられた。稀ではあるが数施設において4か月間に数件の死亡退院症例がみられ、全体の死亡率は2%であった。

狭心症・慢性虚血性心疾患の冠動脈バイパス術施行症例における平均在院日数 (N = 1,062)

解折対象DPC番号の範囲	パーセンタイル											
	0500503x02/0500503x03	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
分類名	解折内容	32.7	7.1	15.4	49.3	21.8	24.5	27.9	32.0	36.8	41.1	47.2
狭心症/慢性虚血性心疾患における冠動脈バイパス術施行症例	在院日数	23.6	5.3	11.8	37.9	15.5	17.9	19.7	23.1	26.6	30.7	32.4
	術後在院日数	9.1	3.6	3.6	21.2	4.2	5.2	6.1	8.9	10.9	13.8	15.0
	術前在院日数											



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数上位25% (9件以上) の施設を解折対象とした。

□ : 術前在院日数

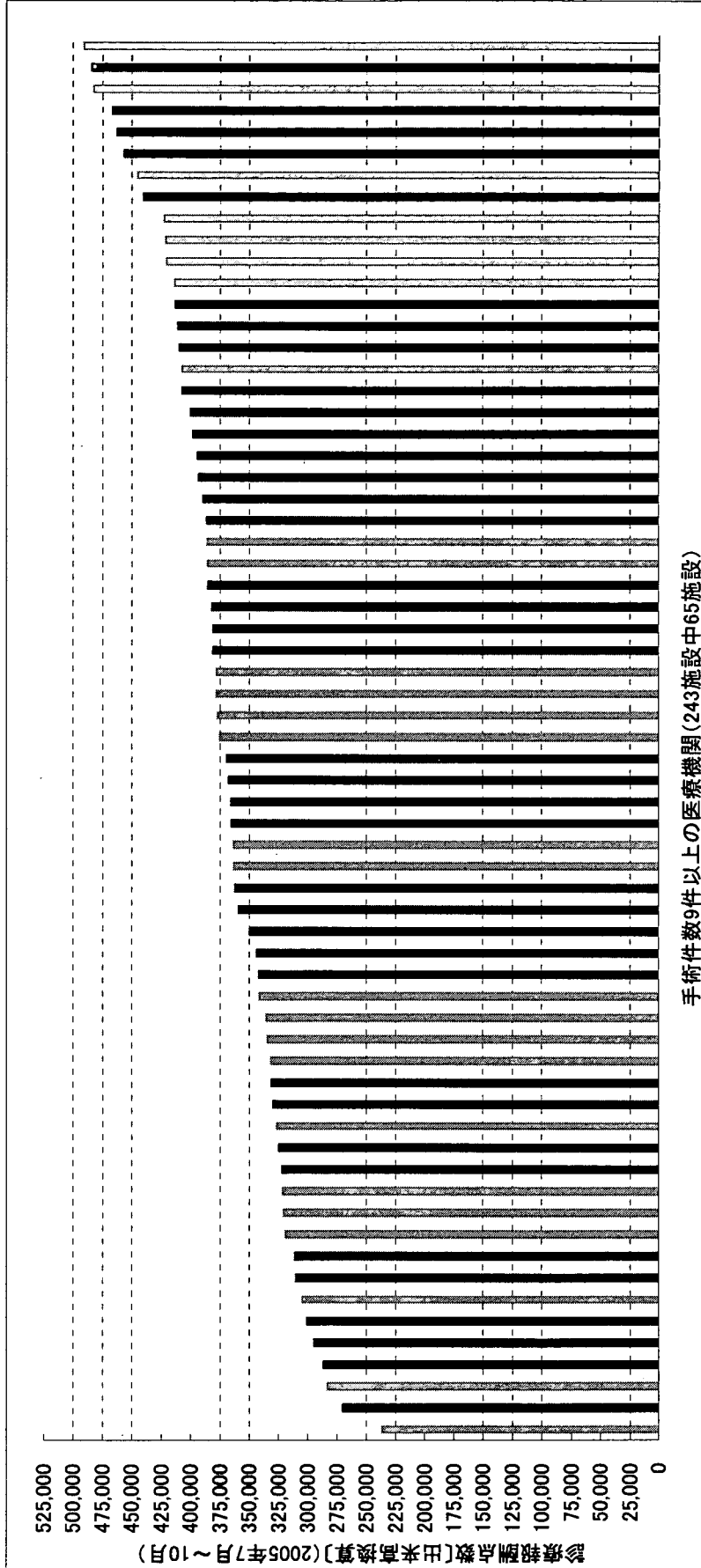
■ : 術後在院日数

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる手術件数9件以上の62施設を解折対象とした。術前在院日数の中央値は約9日、一部ではあるが術前在院日数が3週間を超える施設もあり、在院日数の分布には施設間で大きなバラつきがあった。また、外れ値下位2.5%未満に24件が相当したが、そのうち13件と4件がそれぞれ1施設で占められていた。

狭心症・慢性虚血性心疾患の冠動脈バイパス術施行症例における一入院当たり診療報酬点数〔出来高換算〕平均値(N=1,078)

分類名	パーセントाइル										
	平均値	最小値	最大値	標準偏差	5	10	25	50	75	90	95
狭心症/慢性虚血性心疾患における冠動脈バイパス術施行症例	371,806	237,212	491,292	53,927	288,729	307,605	332,096	376,337	407,882	443,735	466,572
診療報酬点数〔出来高換算〕	370,094	237,212	491,292	58,295	290,517	314,291	330,480	376,337	411,450	432,233	472,031
特定機能病院(27施設)〔出来高換算総点数〕	373,022	271,010	484,871	51,367	294,103	307,981	334,733	375,877	400,368	445,614	463,897
その他の参加病院(38施設)〔出来高換算の総点数〕											



【図の説明】

外れ値として両側5%を除外し、件数上位25%(9件以上)の施設を解析対象とした。単位は診療報酬点数である。

■: 特定機能病院

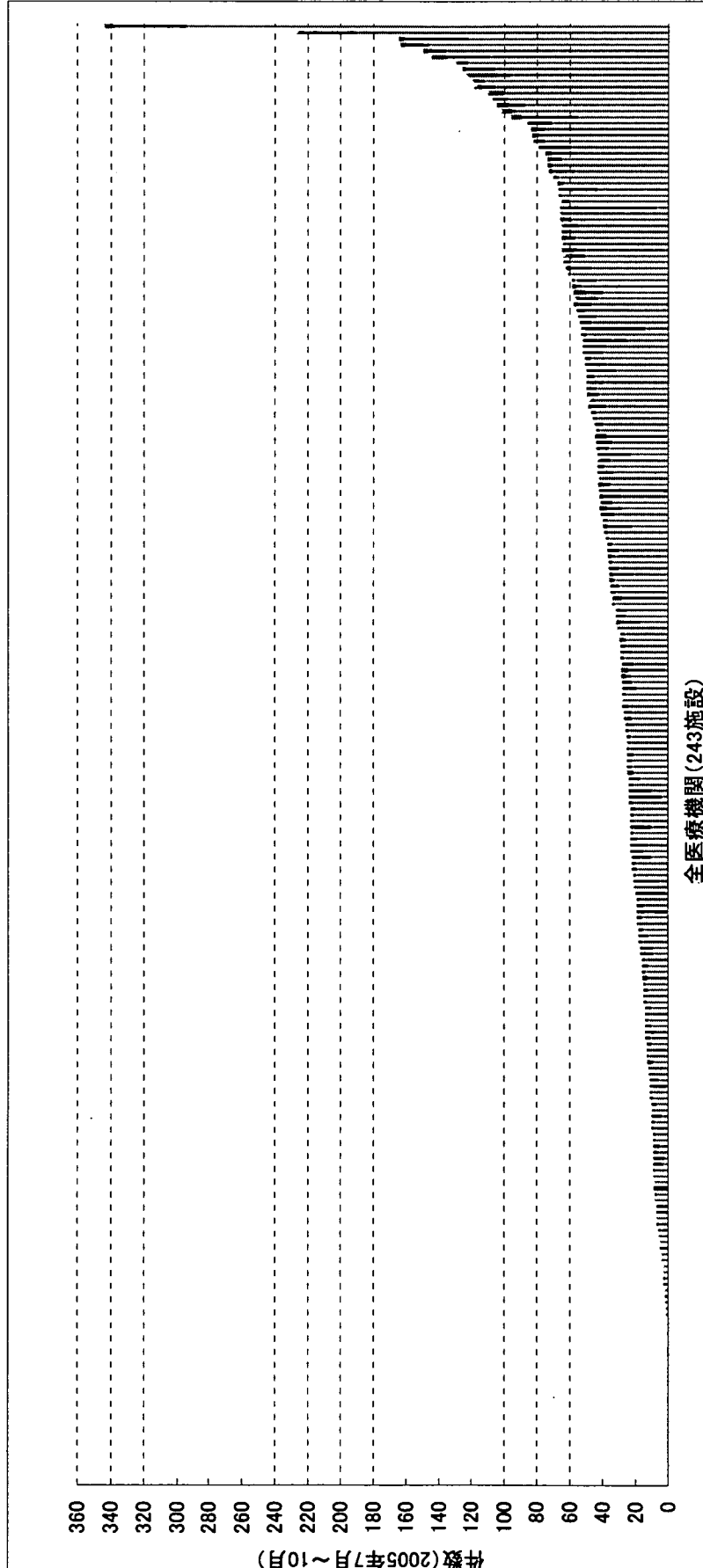
■: その他の参加病院

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる手術件数9件以上の65施設を解析対象とした。全体的にみた1入院あたりの診療報酬は約37万点であるが、特定機能病院の平均値はその他の参加病院よりも0.3万点弱低額であった。

狭心症・慢性虚血性心疾患における経皮的冠動脈インターベンションの種類別施行件数

分類名	解析対象DPC番号の範囲										パーセンタイル				
	0500503x05/0500503x06/0500503x07/0500503x08	手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95		
狭心症/慢性虚血性心疾患	解析内容														
	アテレクトミー	35	0.1	0.5	0	4	0	0	0	0	0	0	1		
	経皮的冠動脈血栓切除術	130	0.5	1.7	0	16	0	0	0	0	1	3			
	経皮的冠動脈形成術	1503	6.2	8.7	0	59	0	0	1	3	7.5	14.8			
	経皮的冠動脈ステント留置術	6924	28.5	34.4	0	294	0	0	6	21	39.5	62.6			



【図の説明】

: 経皮的冠動脈ステント留置術 [DPC手術コード:05]
 : 経皮的冠動脈血栓切除術 [DPC手術コード:06]

: 経皮的冠動脈形成術 [DPC手術コード:08]
 : アテレクトミー [DPC手術コード:07]

【コメント】

243施設中215施設(88%)において経皮的冠動脈インターベンション(PCI)が施行されていた。PCIのうち、全体的にはステント留置術の選択が主流(全体の81%)で、次いで経皮的冠動脈形成術(全体の17%)の順であった。